

作成日： 2011年 04月 01日
 改定日： 2012年 03月 12日
 改定日： 2012年 04月 01日
 改定日： 2015年 04月 01日
 改定日： 2019年 04月 01日
 改定日： 2022年 04月 01日

安全データシート (SDS)

1. 製品名及び会社情報

化学品（製品）	高耐候性シーリング材 T T S - 2 H専用プライマー
会社名	株式会社 LIXIL
住所	〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町 4022-23
担当部署	LWT Japan タイル事業部 タイル製造部 タイル国内調達センター 品質技術課
電話番号	0572-43-3237
F A X 番号	0572-43-3214
推奨用途	シーリング材用プライマー

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学危険性

火薬類	区分に該当しない
可燃性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分2
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自然発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	区分に該当しない
急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入；ガス）	区分に該当しない
急性毒性（吸入；蒸気）	区分4
急性毒性（吸入；粉じん、ミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性・刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発ガン性	分類できない
生殖毒性	分類できない

健康に対する有害性

	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分2（肺） 区分3（麻酔作用、気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
環境に対する有害性	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
絵表示又はシンボル	オゾン層への有害性	分類できない



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体および蒸気
吸入すると有害
眼刺激

注意書き

肺の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ
作業衣、保護手袋、保護メガネ、保護マスクなどを着用すること。
必ず換気をよくして、ご使用ください。
皮膚に付着したり、蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがあります。
皮膚に付着した場合 ; 直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合 ; 水で数分間、注意深く洗うこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合 ; 直ちに医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。
火災の場合 ; 粉末消火剤、二酸化炭素を用いて消火すること。
取扱い後は、手をよく洗うこと。
開封後は、すみやかに使い切ること。
直射日光を避け、冷暗所（5～25℃）で保管すること。
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
危険有害成分

混合物
シーリング材用プライマー
酢酸エチル、酢酸n-ブチル

成分	含有量	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
ウレタンプレポリマー	35～45%	非公開	—
酢酸エチル	40～60%	141-78-6	(2)-726
酢酸n-ブチル	10～20%	123-86-4	(2)-731

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。
皮膚を速やかに洗浄すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	医師の診断、手当てを受けること。 直ちに水で口の中を洗浄すること。 直ちに医師の診断、手当てを受けること。 無理に吐き出させないようにする。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。
消火を行う者の保護	消火活動は可能な限り風上から行い、有毒ガスの吸入を避ける。 消火活動の際は、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項	作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
二次災害の防止策	大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する。 火気厳禁。
局所排気・全体換気	取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気設備のある場所で取り扱う。
安全取り扱い注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 蒸気、ミスト、スプレーを吸入してはならない。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	
適切な保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。 冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。 施錠して貯蔵すること。

8. 曝露防止措置及び保護措置

設備対策

蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。状況に応じ、目の洗浄及び、身体洗浄のための設備を設置する。

	酢酸エチル	酢酸 n-ブチル
管理濃度	200ppm	150ppm
許容濃度		
日本産衛学会（2009年度版）	100ppm	200ppm
ACGIH（2010年度版）TWA	150ppm	400ppm

保護具

呼吸器の保護具

有機ガス用防毒マスク

手の保護具

不浸透性保護手袋

目の保護具

有機溶剤対応型ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

低粘度液体、無色透明

臭い

特有の刺激臭

融点/凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸騰範囲

約 77℃

可燃性

データなし

爆発下限及び爆発上限

データなし

/可燃限界

引火点

約 -4℃

自然発火点

約 427℃

分解温度

データなし

pH

測定不可

動粘性率

該当せず

溶解度

水に不溶

n-オクタノール/水分配係数

データなし

蒸気圧

該当せず

密度及び/又は相対密度

約 0.98

相対ガス密度

空気より大

粒子特性

データなし

不揮発分

95%以上

10rpm粘度 (23℃)

約 30mPa・s 以下 (23℃)

10. 安定性及び反応性

反応性

空気中の湿気に触れると硬化する。

化学的安定性

通常取り扱いでは、安定である。

危険有害反応可能性

現在のところ知見なし。

避けるべき条件

加熱。

混触危険物質

酸化剤。

危険有害な分解生物

燃焼により一酸化炭素等の有害ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

混合物による情報

急性毒性（経口）

計算による「推定値」が、6,262mg/kg となり、区分に該当しないとした。

急性毒性（経皮）

計算による「推定値」が、5,000mg/kg となり、区分に該当しないとした。

急性毒性（吸入 ; ガス）

構成成分は、すべて『GHS定義』による「液体」、もしくは

急性毒性（吸入；蒸気）	「固体」であることから、分類の対象にならない。
急性毒性（吸入；粉塵・ミスト）	計算による「推定値」が、9,843mg/kg となり、区分4とした。
皮膚腐食性／刺激性	計算による「推定値」が、8.6mgL となり、区分に該当しないと した。
眼に対する重篤な損傷／刺激性	皮膚区分3の成分があるが5%以下のため区分に該当しないと した。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	眼区分2Bの成分が10%以上のため区分2Bとした。 情報より呼吸器感受性は分類できず、及び皮膚感受性は分類外と した。
生殖細胞変異原性（変異原性）	情報より区分に該当しないとした。
発ガン性	データ不足のため分類できないとした。
生殖毒性	データ不足のため分類できないとした。
標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分2、区分3の成分がいずれも1%以上のため、区分2及び 区分3とした。
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	データ不足のため分類できないとした。
誤えん有害性	現在のところ「分類データ」がないことから、分類できないと した。

12. 環境影響情報

生態毒性	現在のところ知見なし。
残留性・分解性	現在のところ知見なし。
生態蓄積性	現在のところ知見なし。
土壌中の移動性	現在のところ知見なし。
水生環境有害性 短期（急性）	区分3成分があるが5%以下のため区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない成分のため、区分に該当しないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共 団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の 上処理を委託する。
化学品、汚染容器及び包装 の安全で、かつ、環境上 望ましい廃棄、又は リサイクルに関する情報	空容器類を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に、産業廃棄物（安 定型・管理型産廃）として処理または、回収にまわす。

14. 輸送上の注意

国内規則	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法 に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法 に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法 に定められている運送方法に従う。
安全対策	危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、 転倒しもしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさない ように運搬すること。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合 には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関 その他の関係機関に通報すること。 移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

国際規則	
国連番号	1866
品名	樹脂液
国連分類	クラス 3 (引火性液体)
容器等級	II
海洋汚染物	該当しない

15. 適用法令

各種法規制による該当物質

労働安全衛生法 第57条の1 表示物質	: 酢酸エチル、酢酸n-ブチル
労働安全衛生法 第57条の2 通知物質	: 酢酸エチル、酢酸n-ブチル
労安法 有機溶剤中毒予防規則	: 酢酸エチル、酢酸n-ブチル
化学物質管理促進 (PRTR) 法	: 現在のところ該当物質なし
毒物及び劇物取締法	: 現在のところ該当物質なし

適用法令

消防法	: 第4類 第1石油類 非水溶性液体 (危険等級II)
船舶安全法	: 船舶による危険物の運送基準等を定める告示 第56条 別表第5 に準ずる。
港則法	: 施行規則 第12条 危険物 に準ずる。
航空法	: 規則 第194条 危険物告示 別表第3 に準ずる。

16. その他の情報

引用文献

- 1) 化学物質等安全データシート (MSDS) - 第1部: 内容及び項目の順序
- 2) 製品安全データシートの作成指針 (改訂版)、社団法人日本化学工業協会
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 化学物質の危険・有害性便覧 中央労働災害防止協会
- 5) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253:2019

用途上の注意

本品は建築・土木用途向けに開発・製造されたものです。医療用その他、特殊用途に使用される場合には、貴社において事前に、その安全性をご試験・ご確認の上、ご使用ください。
また、体内に埋植・注入する用途、または体内に一部が残留するおそれのある用途には、絶対に使用しないでください。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

※この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

※ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

すべての化学品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。
本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行って下さい。